

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	子ども支援ルーム 美（ちゅうら）ぐくる				公表日 令和7年 2月 20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			・指定基準・法令を遵守し、子ども達の安全に配慮していきます。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5			・人員基準・人員配置を満たしています。 ・児童数の増加や長期休業時における人員の確保について、職員数を増やしていくなど都度対応していきます。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・生活空間はバリアフリーにしています。 ・場所や物を示す表示は、視覚的に分かりやすいイラストを使ったり色分けする等、工夫しています。	・玄関入り口とトイレ入り口に段差がありますが、生活動作範囲内で対応しています。必要に応じて、手すり等の設置を検討していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			・環境整備を徹底します。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・個室あり。児童との面談、クールダウン、個別活動に対応できるよう個別の空間を設けています。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		・ミーティングと業務の可視化を重視し、改善に努めています。	・現状把握のもと課題解決に向けた「具体策」を見つけ、改善に繋げています。また、事業所内で、報告・連絡・相談を徹底し、ミーティング会議を継続していきます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・保護者等からの事業所評価、集計結果を職員全員で共有しています。ご意見を踏まえた対応や改善策について全員で考えていくよう努めています。	・評価結果と意見・要望等を真摯に受け止め、業務改善に努めます。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・職員の自己評価結果を共有し、課題の把握と問題解決に向けての話し合い、意見交換を行っています。	・職員ひとり一人が自分の意見や気持ちを伝え合うことのできる、風通しの良い職場環境を心がけていきます。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4		・現在、第三者による外部評価は行っておりませんが、今後検討していきます。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・事業所内研修や外部研修に参加し、職員の質の向上に努めています	・引き続き、職員の育成、教育、職場環境づくりを行い、資質の向上を図ります。職員全員が研修に参加できるよう努めます。
適切な+	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			・インターネットへの掲載等は期日内に公表します。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		・保護者に「新サポートノートえいぶる」を記載してもらう等、情報収集やニーズ・課題の把握につなげています。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・支援会議を行い、情報の交換・共有を通じて共通理解を図り、検討しています。	・子ども本人や保護者の願い、ニーズを理解し、個々の特性に応じた発達上の課題への本人支援、家族支援の提供に努めます。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			・報告、連絡、相談を徹底し、支援会議や日々のミーティングを継続していきます。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		・定期的な面談の実施や日々の行動観察、実際の支援を通じて、困っていることの確認を行っています。	・より個別的な支援計画にするために、フォーマルなアセスメントとインフォーマルなアセスメントを繰り返し行い、支援につなげていくよう努めます。
適切な+	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			・ガイドラインの内容を踏まえた支援内容となるよう留意していきます。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・毎月の活動プログラムを職員間で話し合い、決定しています。子どもたちの意見や提案を積極的に取り入れ、楽しく参加できるように工夫しています。	

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・ソーシャルスキル、運動、工作など様々なプログラムを提供しています。また、季節や文化を取り入れた活動も行っています。	・子どもたちが活動を通して成功体験を積み重ねていけるよう、職員も様々な知識やスキルを習得し療育プログラムに取り入れていきます。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		・朝のミーティングで、配慮すべき事項や役割分担について確認し合っています。 ・その日の集団活動の内容はホワイトボードに記載し、子どもたちも見て確認できるようにしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		・その日の子どもたち一人ひとりの様子や状況について情報交換し、気付きや良かった点、配慮すべき点について振り返りを行っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			・支援記録は個別のサポートや活動の評価に役立つ情報となるため、記録の内容も深めていきたいです。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5			・活動において、地域交流の機会の提供をもっと幅広く増やしていきたいです。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		・子どもの意思を尊重し、受容的な関わりを心がけています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		・子どもの既往歴や基礎疾患に応じて、保護者を通じて医療からの情報提供も受けています。	・主に学校との連携が多い現状だが、様々な視点で個々に必要な支援を考え、サポート体制を構築していきたいです。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		・学校のお便りや連絡アプリ、必要時は直接電話連絡を行い確認と調整を図っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		・担当者会議への参加や相談員との連携で情報共有、相互理解に努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				・これまでに対象児童はいません。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3	・相談支援専門員や事業所間で情報交換を行う等しています。	・支援センターとの連携を増やしていきたいです。専門的な助言や研修を受け、支援につなげていけるよう努めます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	5		・地域の子どもたちと公園と一緒に遊んだりしています。	・放課後児童クラブや他の放課後等デイサービス事業所など、今後はより多くの交流を持てるように計画していきたいと思います。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		5		・子ども部会や地域の子育て会議等へ参加できるよう努めます。また、研修受講も検討します。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		5	・支援記録とLINEを活用しています。毎回の支援ごとに写真を添えて子どもの状況や療育の様子を伝えています。また送迎時に保護者とコミュニケーション図るよう心掛けています。	・今後も継続して信頼関係の構築に努め、より良い支援につなげていきたいです。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	・個別での対応をしています。子育てや子どもの特性理解と対応について相談・助言を行い、支援体制を整えています。	・自治体等が案内する家族支援プログラムの開催や保護者が参加できる研修について、積極的に発信し情報提供していくよう努めます。また、職員の研修受講も検討します。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			

保護者への説明等	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	3	・保護者同士を繋げて学校等でも関わりが持てるよう、配慮しています。	・父母の会の活動支援や保護者会の開催はこれまで実施したことがありませんでした。家族が参加できるイベント等を計画し、保護者・きょうだい同士の交流や活動の機会を設けていくよう努めます。
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		・毎月のお便り発行やLINE等を活用し、子どもたちの様子や事業所の情報を発信しています。必要時は定期以外で文書を配布したり、SNSを通じてPDFを添付しています。	・毎月、「美(ちゅう)ぐくるだより」と「集団活動予定表」を発行し、配布しています。子どもたちの事業所での様子や連絡事項等をお伝えしています。
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・基本を徹底しています。	
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		・地域住民を招待する行事等はまだ行っていません。利用児童のきょうだい児は、保護者付き添いに限り事業所の活動に一緒に参加できる対応をしております。 今後、地域住民との交流も計画していきたいと思います。
	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		・事故・緊急時の対応についてはフローチャートも作成し、見て分かりやすい工夫をしています。 ・訓練は計画に沿って実施しています。	
非常時等の対応	47 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		・BCPについて、研修での情報や知識を職員全員と共有する勉強会を実施しています。	・災害時の避難訓練は行っているが救出その他の訓練はまだ不十分のため、今後は段階的に取り入れていきたいと考えています。
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		・基礎疾患の有無や既往歴等について、確認を徹底しています。	
	49 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		・現在、食物アレルギーのある児童は在籍していません。 ・アレルギーの有無については、契約時に保護者様への聞き取り（情報収集）を行い、職員全員で把握しています。	・事業所では、活動のひとつにクッキングを取り入れています。また、毎日おやつの提供もしています。利用児の食物アレルギーの有無について、保護者より情報収集をし、医師の指示に基づく対応と安全管理を徹底しています。
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・朝のミーティングや職員会議にて、ヒヤリハットの報告、情報を共有を行っています。	
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			・引き続き定期的に研修会へ参加したり、事業所内研修を工夫し、虐待防止のための適切な対応を学び職員全員で周知徹底していきます。
	54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		・対象児童は在籍していません。	・原則、身体拘束は行いません。 ・緊急やむを得ない事情で身体拘束が必要と判断した場合、保護者へ十分な説明と同意を得て個別支援計画に記載します。